

【生薬名】牡蛎 *OSTREAE TESTA*

【起源動物】マガキ *Ostrea gigas*

【科 名】イタボガキ科 *Osteridae*



【別 名】牡蠣一名蠣蛤(神農本草経)

【薬用部分】カキ殻

【主 成 分】炭酸Ca、Mg・Alなどのミネラル

【薬 性】気味は鹹渋微寒、帰経は肝胆腎に属す

【効 能】●重鎮安神・平肝潜陽・収斂固渋・軟堅散結・制酸止痛

●漢方的効能は鎮静、軟堅散結

●頸部リンパ腺腫、乳癌、肝腫、脾腫に用いる

●腫瘍には生用する

●1日3～10g

●生牡蛎は亜鉛を多く含み精力減退や強壮に良い

●カキをはじめとする貝類はタウリンを豊富に含むので肝臓病には最適な食品

●牡蠣の味鹹はよく堅を軟かくし、性寒は能く熱を清する。又、驚を鎮め渋を固くする効があり、陽を益し陰を潜し以て精を固め止める。

●牡蠣は足の少陰に入り堅を軟かにする剤である。

【出 典】●治傷寒寒熱。温瘧洒洒。驚悸怒氣。除拘緩鼠瘻。女子帶下赤白。久服強骨節。殺邪鬼。延年。(神農本草経上品)

●牡蠣 微寒、精を渋り、汗を止め、崩帶脇疼、老痰散ず可し(薬性歌)

●胸腹の動を主治し、驚狂、煩躁、失精を兼治する(薬徴)

【備 考】●マガキ、イガキ、マガキ、マガキ、マガキ、マガキも牡蠣として利用する

●

【処方例】●柴胡桂枝乾姜湯・桂枝加龍骨牡蛎湯・柴胡加龍骨牡蛎湯・紫根牡蛎湯